HIROSAKI COI
center of innovation

The Center of Healthy Aging Innovation
～真の社会イノベーションを実現する「革新的『健やか力』創造拠点」～

正式拠点名：
『認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発』拠点

岩木健康増進プロジェクト

背景とその経過

日本は超高齢化社会を迎え、高齢者における健康増進および医療費の削減が社会的課題となっています。

なかでも、**もっとも寿命の短い青森県**は、**日本で最も多くの健康・医療課題を抱えた地域**であり、加齢性疾患および生活習慣病により県民の健康は大きく損なわれています。

この様な状況の中で、弘前大学・弘前市・青森県総合健診センターは、**短命県返上を目的に、平成 17 年から弘前市（岩木地区）において岩木健康増進プロジェクト**を立ち上げ、**16 年にわたり**、同地区住民を対象に健康状態の現状とその問題点を詳細に調査し、健康指導など**住民の健康増進活動を実施**してきました。

本プロジェクトは、教育・研究・実践の拠点で地域住民を軸に**医学・健康に関係する多職種が集うプラットフォーム**でもあります。

概要

弘前大学・弘前市・青森県総合健診センターは、**「短命県返上」**を目的に H17 年度（2005）から弘前市（岩木地区）において、**“岩木健康増進プロジェクト（大規模住民合同健診）”**を実施。

岩木健康増進プロジェクト　Iwaki Study

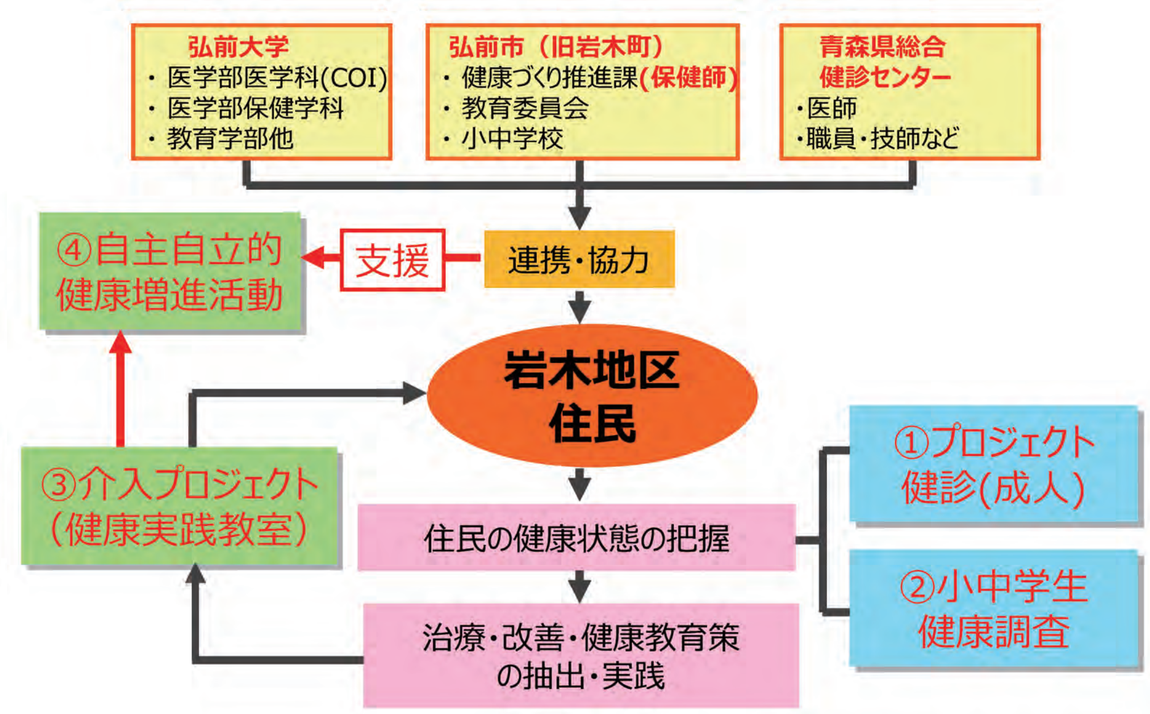
1 “健診”として周知されており、**16 年間継続**
2 **頭からつま先まで**カバーする多様な検査項目（**2,-3,000項目**）
3 **ゲノムから腸内細菌、軽度認知機能関連**まで幅広く測定
4 学生の**教育活動にも活用**
5 **行政、大学、健診センターの協力体制が確立**している
6 **健康啓発活動を行う住民（健幸リーダー）を育成**し、健康啓発を行う
7 **多くの論文発表**と新たな可能性（**高いポテンシャル**）

（残存歯数の減少や飲酒、聴力低下が認知機能低下のリスクとなる
肥満に腸内細菌が関与し、その細菌叢は60歳前後で変化するなど）

地域に密着した活動を行っており、**社会実装**に向けた**信頼関係が構築されている！**

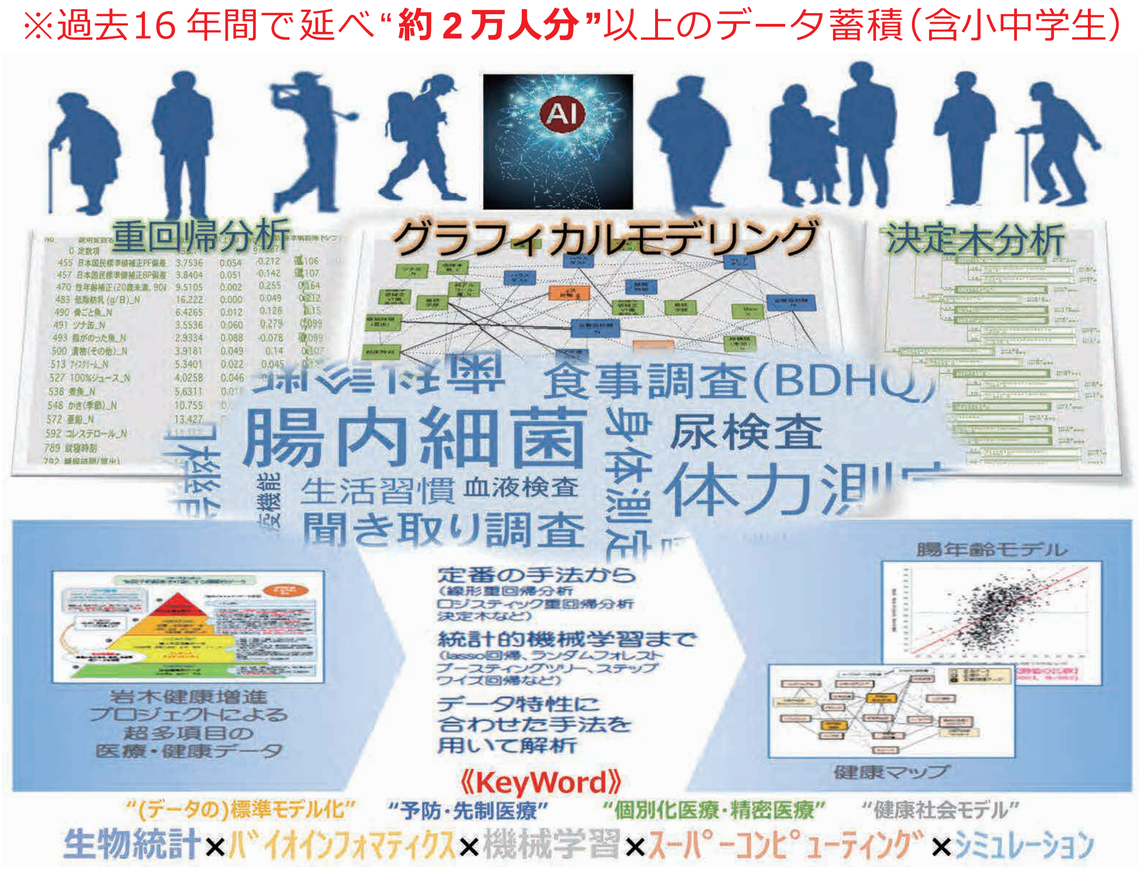
組織概要

※大学と行政、住民がしっかりと連携した推進体制を構築
※短命返上、健康教育、研究のコア拠点であり、関係多職種が集う**一大プラットフォーム**



プロジェクト健診の様子（弘前市岩木地区）

弘前COI拠点への企業連携（参画）イメージ

多因子・ピュアビッグデータを網羅的に検討

※過去16 年間で延べ“**約 2 万人分**”以上のデータ蓄積（含小中学生）